



3月19日、市内の多くの小学校で卒業式が行われました。
天尾小学校では、卒業生2人が、思い出の詰まった学び舎に別れを告げました。音楽室で行われた式には、天尾小学校の児童4人全員と、教職員、保護者ら約30人が出席しました。卒業生2人は、渡部靖徳校長から卒業証書を受け取り「天尾小学校での思い出を胸に、夢の実現に向けて一生懸命頑張っていきたいと思います」と力強く、感謝の言葉を述べました。

市政 PICK-UP

133年の歴史に幕

天尾小学校で最後の卒業式・休校式

天尾小学校は明治12（1879）年に開校しましたが、児童数の減少により、3月27日の休校式をもってその歴史に幕を閉じました。式では、児童4人が朗読劇を披露した後、渡部校長が「天尾小学校からはこれまで970人が巣立ち、長く愛されました。休校することは寂しく思います」と述べました。最後に全員で校歌を斉唱し、出席した約150人の関係者が学び舎に思いを馳せました。

国学校教育課 ☎ 5204



寄附で支え合いのまちづくり

3月13日「寄附でつくる市民のまち」これからの支え合いのカタチ」をテーマにした地域福祉推進講演会が、市民会館で開催され、市内や近郊から約250人が参加しました。

東日本大震災から2年が経過して全国的に寄附の機運が高まり、寄附を通じた社会貢献が地域の支え合いやまちづくりを変え始めています。市民にも寄附の意識を高めてもらおうと、さわやか福祉財団理事長の堀田氏



▲ユーモアを交えて話す堀田氏

地域福祉推進講演会

氏が講演されました。

堀田氏は「人には人を助ける遺伝子があり、寄附したことで自信や喜び、共感を得ることができます」と強調され、また市民からの「寄附は実際の地域のまちづくりに役立っていますか？」という質問に「はい。地域でこれからもっとかたちとして現れてくるでしょう」と答え、寄附を通じた地域福祉の推進を呼び掛けました。

図社会課 ☎ 295070



▲質問をする参加者



▲完成した浮棧橋

浮きさんばし 浮棧橋が端島に完成

3月26日、市の柱島群島にある端島で、端島港の係留施設、浮棧橋が完成しました。

これまで、定期船は岸壁に着岸していたため、乗降者は岸壁に設置された階段を利用していました。浮棧橋は、潮位の干満に合わせて高さが上下し、浮棧橋と島の間は、高さに合わせて傾斜を変える連絡橋で結ばれています。この浮棧橋の完成によって段差がなくなり、高齢者が人口の約85パーセントを占める

高齢者も使いやすく

端島では、車椅子での移動も可能になりました。

運用が開始された4月2日、端島から亀田春生自治会長らが新たな浮棧橋から定期船「すいせい」を利用して福田良彦市長を訪問し、完成の喜びと感謝を伝えました。福田市長は「端島の皆さんの利用はもちろん、多くの人がこの浮棧橋を利用し、自然や海産物の豊かな端島を訪れてほしい」と述べました。

図政策企画課 ☎ 295013



▲福田市長を訪問する亀田自治会長ら